

令和7年度 市長との対話集会（小浜地区）議事要旨

日 時：令和7年10月1日（水） 19時00分～20時30分

場 所：働く婦人の家

参加者：27名

テーマ：新幹線と共に歩む小浜市の将来像

1 参加者からの主な意見

(1) PR戦略の強化

- ・新幹線開通を見据え、来訪者を増やすためのPR強化。
- ・若者世代に響く、インパクトのあるものや、ストーリー性、地域の特色を活かした発信を検討。

(2) 地域資源の活用と観光振興

- ・海を中心とした自然景観を小浜の強みとして最大限に活用。
- ・子どもの遊び場やキャンプ場など、地元住民も来訪者も楽しめる施設整備。
- ・小浜の強みである食、町並み、歴史を観光客誘致にさらに活かすべき。
- ・新たな観光施設が必要。若狭町のレインボーラインのような観光の目玉となる施設（例：赤い鳥居の並び（伏見稲荷大社）、人魚のモニュメント、地下水族館など）

(3) 経済活性化と雇用創出

- ・将来性のある企業（例：熊本の半導体企業）を誘致し、従業員や観光客の増加につなげる。
- ・小浜には働く場所や進学先が少ない。

(4) イベント効果の最大化

- ・若狭マラソンや落語大会などの既存イベントを最大限に活用。
- ・県外からの来訪者向けに土産物店や食事ができる場所を市街地に整備。
- ・観光地がメディアで紹介されても、その場所への交通アクセスが課題。

(5) 定住・移住促進と住環境整備

- ・新幹線開通後、小浜から出ていく人が増える懸念に対し、小浜に残ってもらうための施策が必要。
- ・新幹線で関西圏への通勤が可能になる点を活かし、子育て支援や教育、医療・介護の充実を図り移住定住を促進。
- ・移住を促進したいが、住宅建設費が高いという問題があるため、空き家の活用を検討。

(6) 新駅周辺のまちづくりとアクセス

- ・新駅開通後の現小浜駅へのアクセス、新駅周辺の整備をいかに進めるか。
- ・新駅周辺の農地を建物用地として検討すべき。

2 市長からの主な回答

(1) PR戦略の強化

- ・PRは行政が苦手な分野であり、外部の専門家や市民と連携し、体制を強化していく。
- ・ただ発信するだけでは効果が薄い時代。発信の仕方を常に研究し、変化させていく必要がある。
- ・小浜のブランド価値を明確化し、まずは市民が誇りを持てるようにする。
- ・若い世代と先輩方の知見を融合させ、地域の伝説や物語をアニメ化して発信することは面白い発想。物語性や伝説を活かしたコンテンツ開発は、多世代にわたる関心を引き出す可能性を秘めている。

(2) 地域資源の活用と観光振興

- ・小浜の既存の強みをさらに磨き上げ、キャンプ、SUP、自然体験、食の体験など、来訪者や地元住民が「体感」できるプログラムの開発と提供が重要。
- ・観光客のニーズを迅速にキャッチし、行政だけでなく民間の力も借りて土産品開発などを進めたい。
- ・新たな観光施設に関するアイデアは面白い。小浜の魅力を表現でき人口増加につながる視点も必要。

(3) 経済活性化と雇用創出

- ・企業誘致は重要であり、あらゆる可能性を検討する。ただし、小浜市の規模や資源（地下水など）を考慮することも重要。従業員の来訪による消費や地域活性化に期待。

(4) イベント効果の最大化

- ・土産物や食事場所の不足は認識しており、スピーディな対応が必要。まちづくりの中で、歩いて買える・食べられる拠点整備を検討する。PR 方法も改善し、必要な人に情報が届くようにする。

(5) 定住・移住促進と住環境整備

- ・新幹線開通後の通学・通勤環境は大きく変わる。佐久平駅（長野県佐久市）の事例のように、都会へのアクセスと豊かな自然環境、教育環境の充実で定住を促せる可能性がある。小浜も週末は家族でゆっくり過ごせる暮らし方を提案できる。
- ・住宅建設費が高い問題に対し、空き家活用は有効な手段。小浜市でも空き家購入やリフォーム費用を補助する制度があるので、積極的に活用してほしい。
- ・新幹線は出ていく手段にもなるが、小浜市の仕掛け次第で来てもらう手段にもなる。食や歴史など、個々の魅力の質を高めることがくらしの質を上げる。既存の魅力（選ばれている目的地）をさらに膨らませることが大事であり、新しいアイデアもどんどん出してほしい。

(6) 新駅周辺のまちづくりとアクセス

- ・小浜らしい魅力を演出しながら、観光客の受け入れ体制（土産物・飲食店など）と定住促進（子育て支援・教育、医療・介護の充実、住宅支援）の両面を強化する必要がある。特に、関西が通勤圏となる利便性を活かした「週末は自然豊かな小浜で過ごす」ライフスタイルの提案は、若年層の定住促進に繋がり得る。
- ・新駅周辺は農地を造成し新たなものができる場所。限られた資源の中で、小浜らしさを演出し、感動を与えられるエリアづくりを皆さんと進めていきたい。